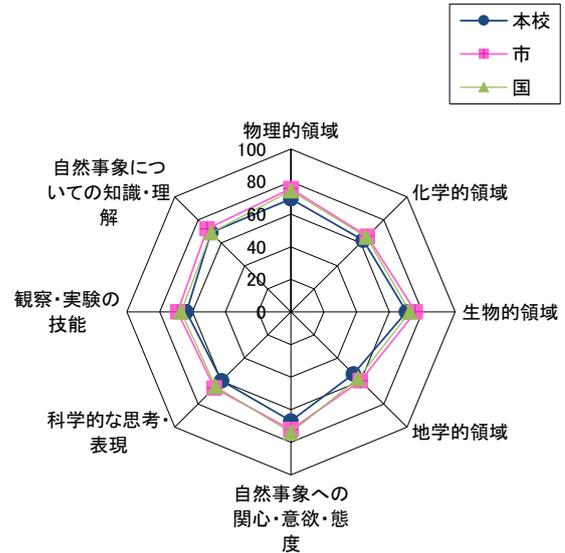


宇都宮市立宝木中学校第3学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物理的領域	69.4	75.7	74.4
	化学的領域	62.2	65.8	65.0
	生物的領域	70.4	75.9	72.5
	地学的領域	53.8	59.8	57.8
観点	自然事象への関心・意欲・態度	66.9	72.3	74.0
	科学的な思考・表現	59.8	66.0	64.9
	観察・実験の技能	63.7	69.1	67.0
	自然事象についての知識・理解	68.9	72.1	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物理的領域	<p>平均正答率は市、全国平均を下回っている。</p> <p>○豆電球とLEDの点灯のようすと電力の関係を指摘する問題では県や国よりもやや高い結果となっている。</p> <p>●抵抗の計算の問題において、県や国よりも低い結果となっている。無回答率も高い。</p>	<p>・数値と写真から考える問題がやや高い結果となっており、今後も実験結果を考察する段階を大切に進めたい。</p> <p>・基本的な公式の確認を式の意味を理解させながら行う。計算力をつけるために、授業開始時に計算練習の時間をつくり指導する。</p>
化学的領域	<p>平均正答率は市、全国平均を下回っている。</p> <p>○化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明する問題では県よりも高い結果となっている。国とはほぼ同じ結果となっている。</p> <p>●発熱パックに入っているアルミニウムが水の温度変化に関係していることをグラフを見て問題文を読み取る問題で県や国よりも低い結果となっている。</p>	<p>・化学変化に関しては、今後も、分子モデルを活用し、化学反応についての理解を深めさせていく。</p> <p>・実験結果のグラフ化やグラフの読み取りに関しては、今後もグラフ化する操作やグラフの読み取り表現する部分に時間をかけて取り組んでいく。</p>
生物的領域	<p>平均正答率は市、全国平均を下回っている。</p> <p>○神経系の働きについて知識を問う問題では、県や国よりも高い結果となっている。</p> <p>●生物の実験で一つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できるかについて正答以外の指摘と無回答が多かった。</p>	<p>・知識理解分野の問題では、高い結果が出ている。今後も正しい知識の定着に力を入れて授業を展開する。</p> <p>・対照実験を行う際に、単に条件を変えて実験を行うという指摘だけではなく、一つの条件から考えられる様々な影響や予想される結果についても考察できるように時間を十分に確保する。</p>
地学的領域	<p>平均正答率は市、全国平均を下回っている。</p> <p>○太平洋高気圧の特徴を選択肢の中から選ぶ問題では県や国の正答率より高い結果が出た。</p> <p>●台風の進路が太平洋高気圧の影響を受けるといことについて、偏西風・太平洋高気圧・発生地点の結果を見て指摘する問題で県や国よりも低い結果となった。</p>	<p>・知識理解分野の問題では、高い結果が出ているが、さらに暗記ではなく思考を重視した授業を展開する。</p> <p>・問題文や模式図(写真・グラフ・図等)を正確に読み取るために、具体的な事実と模式図を関連させながら理解させる。</p>